



GIA
Gunma Innovation Award
2026

ジンスHD
会長CEO

田中さん

慶応大
教授

安宅さん

地方都市の可能性探る

群馬イノベーション会議で対談



トークセッションで語り合う田中さん(左)と安宅さん

ファイナル 高崎で3月

今年で14年目を迎える起業家発掘プロジェクト「群馬イノベーションアワード」

(GIA)2026」(上

毛新聞社主催、田中仁財団共催)のキックオフイベント「群馬イノベーション会議」が19日、前橋市の日本トータルグリーンドーム前橋で開かれた。慶応大環境情報学部教授の安宅和人が「風の谷という希望」と題して講演。GIA実行委員長の田中仁さん(ジンスホールディングス会長CEO)と地方都市の可能性についても語り合った。

GIA2026のエントリー受け付けは7月14日〜12月15日。1次、2次審査の通過者がファイナルステージに進む。ファイナルステージは例年12月に前橋市内で開催していたが、今回は2027年3月13日に高崎市の群馬音楽センターで開催。

人口が集中する大都市の代替として歴史があり自然豊かでありながら人口密度の低い地域「疎空間」を、知恵や技術で存続可能にする構想を掲げる。「自然の恵みや美しさに加え、都市に集中していた生産性や創造性も、技術によって疎空間で実現可能になる」と説明した。

人工知能(AI)により場所の依存性は下がり、水や食、人間関係などの価値が高まると指摘。①絶景②絶生(健やかな暮らし)③

田中さんが前橋市中心街で展開するまちづくりについて「緑が少ないので街中を公園のようにしたい。舗装でなく土だったら落ち葉も気にならない。全く新しい視点で地方都市を変えていけたら」と話すと、安宅さんは「徹底的に取り組んだ方がいい。前橋の街中を見下ろせる中腹からの眺めは絶景」と新たな魅力を伝えた。

イベントには経営者ら約300人が参加した。(林哲也)